

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 木曽三川サイクルツーリズム推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 観光資源活用課 広域連携係 電話番号：058-272-1111(内3932)

E-mail：c11337@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,530 千円 (前年度予算額： 12,337 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	12,337	6,093	0	0	0	0	0	0	6,244
要求額	6,530	3,175	0	0	0	0	0	0	3,355
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

木曽川中流域沿線地域の地域振興を目的に、民間主導のサイクリイベント「ツール・ド・KISOGAWA」の開催や、国の木曽三川サイクルツーリズム推進のタイミングに併せて県自転車活用推進計画を所管する道路維持課と一体となって事業推進に取り組み始めたところだが、路面や案内看板、マップやWEBサイト等、ハード・ソフト両面で整備が十分でない。

(2) 事業内容

道路維持課による風光明媚な岐阜県内木曽三川エリアの推奨サイクリングルート整備に合わせて、当該ルートの紹介のみならず、観光消費増加及び救護体制を兼ねたエイドステーションの整備及びその情報発信等を一元化したWEBサイトの構築等により、分かりやすく地域の魅力と共にルートを紹介する。また、年間通じて多様なサイクリングイベントを開催し、多くのサイクリストが集まる地域を目指す。

なお、将来的にナショナルサイクルルート認定を目指すことで、自転車を活用した新たな市場の開拓につながるだけでなく、健康寿命の延伸や脱炭素社会への提言など、地域全体で様々なメリットを享受することができる。

（３）県負担・補助率の考え方

広域連携を推進することにより、県内地域への誘客促進と観光消費増加を目的とする事業を推進することは県の役割であり、県負担は妥当。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	180	職員旅費
需用費	568	消耗品（エイドステーション、ラック）
役務費	120	配送料
委託料	5,662	マップ制作、WEBページ運営、プロモーション
合計	6,530	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
- 3 地域にあふれる魅力と活力鶴く
- （２）次世代を見据えた産業の振興
- ④世界に選ばれる持続可能な観光地づくり
- ・岐阜県観光振興プラン

（２）国・他県の状況

- ・連携する道路維持課においても、ハード整備部分について要求。

（３）後年度の財政負担

- ・事業計画をもとに、道路部門による必要な整備に追随する形でソフト事業を継続的に実施し、一体となって自転車ルートの整備と集客に向けた環境整備を進める。

（４）事業主体及びその妥当性

- ・行政区域の枠を超えた広域連携による取り組み及び県内への誘客促進と県内での観光消費額増加を目的とした事業を推進するのは県の役割であり、県負担は妥当。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

5年ごとに行われるナショナルサイクリングルート認定（令和8年、令和13年）に向け、道路整備を含めた環境整備と受入体制を整備し、中長期での誘客に取り組む

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①観光消費額		4,013億円	3,300億円	3,450億円	3,600億円	111.5%
②観光入込客数 (実数)		4,470万人	4,900万人	5,100万人	5,300万人	84.3%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	
令和6年度	木曽川中流域観光振興協議会において、10月に岐阜羽島から美濃加茂まで、愛知県側と岐阜県側の木曽川沿線自治体を繋ぐ「ツール・ド・K I S O G A W A」を初開催。多様なイベントの中、59名のイベント参加者を達成した。 当該イベントを契機に、木曽川沿川のサイクルツーリズム推進体制を構築。 指標① 目標：3,100億円 実績：4,013億円 達成率：129.5%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	川下りが無くなり20年以上経ち、木曽川中流域に目立った観光資源が無い中で、新たな誘客目的となる観光資源を創出する。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	木曽川沿川を活用したサイクリイベントに定員となる150人が参加する等、木曽川サイクルツーリズムの認知向上が図られている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	木曽川を活用したサイクリイベント等民間活力を活用した事業を実施している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・宿泊施設や観光消費を目的とした施設の整備 ・交通機関の充実

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き、民間主導のイベント支援や木曽川サイクルツーリズムのプロモーション等により、認知向上及び誘客促進に取り組む。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	